

まちの きおくを あつめる、かたる  
ちっ こう  
— 築港の記憶 —



昭和 30～35 年の塩竈市築港（現・港町） 写真提供：無量井英二

2024 年 4 月 29 日 [月祝] ～ 6 月 9 日 [日] 塩竈市杉村惇美術館  
月曜休館（但し 4 月 29 日開館、翌日 30 日休館） 10 時～17 時（入館受付 16 時 30 分まで）

展示観覧料（常設展込）：一般 200 円 高校生 100 円 メンバーシップ会員・中学生以下無料  
[団体（20 人以上）：一般 160 円 高校生 80 円] ※各種障がい者手帳を提示された方は割引

塩竈市杉村惇美術館

SHIOGAMA SUGIMURA JUN MUSEUM OF ART

主催：塩竈市杉村惇美術館 共催：塩竈市

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局

NHK 仙台放送局 tbc 東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ khb 東日本放送 エフエム仙台

BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社



## 展覧会

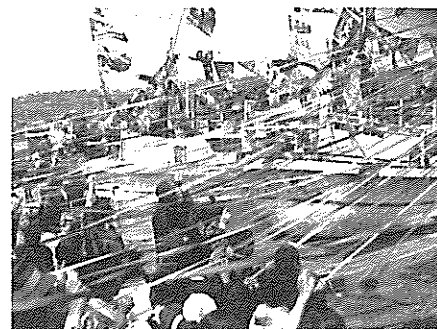
「まちのきおくをあつめる、かたる」は、杉村惇が塩竈に住んでいた昭和 20~39 年の年代を軸として、塩竈のまちの写真やエピソード等を収集するプログラムです。これまで当プログラムでは市民が撮影した暮らしや町並み、お祭行事、鉄道風景、チリ地震津波などの写真およびその記憶を集めてきました。

今回は、昭和時代の塩竈の経済活動の中心であり、まちの心臓部であった「築港」(現・塩竈市港町あたり)についての人々の記憶を取り上げます。港町が築港と呼ばれていた時代、魚市場や小売市場があった港周辺には、屋台や商店が並び、水揚げされた魚を直ちに運搬するための貨物線がまちを横切っていました。生活や娯楽の面においても銭湯や映画館などが数多くあり、水揚げを終えた船乗りたちは通りを闊歩し、港は活気に満ち溢れていました。杉村惇も親戚の縁故をたよりに塩竈に越してきた当初はこの築港で生活し、魚市場の風景や漁船などの風景を描き留めました。

当時の人々はそのような港特有の賑わいと猥雑さが混じりあう華やかな塩竈になんを見えていたのでしょうか。本展では築港やその周辺に住んでいた人々によって語られる築港にまつわる音声エピソードを中心にご紹介いたします。よき時代として人々が記憶する塩竈の思い出が現在においても色褪せることなく、これからを考えるきっかけとなれば幸いです。

写真・資料・エピソード提供(敬称略):

赤井尚武、齋藤義晴、滝井園茶舗、角田純生、馬場惣寿、畠山信夫、村上善博、無量井英二、吉田孝子、和賀耐互、塩竈市 ほか



漁船の出発(塩竈市提供)



築港での護国稲荷のお祭り(市民提供)



## 関連イベント | 昭和レトロな髪型きせかえ

耳隠し、フィンガーウェーブ、いたこ、潮来刈りなど、昭和 20~30 年代に流行した髪型にヘアチェンジ! 展覧会場内の撮影ブースにてポートレート撮影し、好きな昭和の髪型を選びましょう。気軽に昭和レトロの擬似体験をお楽しみ下さい。

展覧会会期中の週末と祝日 10:00-16:30

(4月29日/5月3、4、5、11、12、18、19、25、26日/6月1、2、8、9日)

塩竈市杉村惇美術館 企画展示室 2

参加費: 展覧会観覧料(申込不要)



## 会場・問合せ/塩竈市杉村惇美術館

宮城県塩竈市本町 8 番 1 号

電話 022-362-2555

FAX 022-794-8873



敷地内駐車場 15 台

美術館鑑賞券をお持ちの方には、提携駐車場「タイムズ塩竈本町」のサービス券(1時間)をお渡し致します

塩竈市杉村惇美術館

SHIOGAMA SUGIMURA JUN MUSEUM OF ART



・JR 仙石線本塩竈駅から徒歩 10 分  
・JR 東北線塩竈駅から徒歩 20 分  
※美術館鑑賞券をお持ちの方には提携駐車場タイムズ 24 のサービス券を配布しております。